

繪はがき競技會第三十三回

等級	題名	作者	題名	作者
一等	露	外山孝四郎	夕陽	加毛精一
二等	嵯峨野	鈴木錠吉	秋の夕	島村安三郎
三等	つゆくさ	中尾春雄	夕陽の山	渡邊六郎
四等	芋の葉の上	大峰眞一郎	郊外	松岡友次郎
五等	露	石川天美	丘の夕陽	横田順三
六等	松の下露	榎本滋	社頭	立花甚之助
七等	業平朝臣	宮島文雄	犀川	榎本滋
八等	護良親王	永井源二郎	北野の夕	石川天美
九等	露の命	渡邊六郎	河添	工藤太郎
十等	蜘蛛の糸	賀古和助	社前	並本富太郎
十一等	つゆ艸	寺田季一	山路	宮澤爲二郎
十二等	夕つゆ	佐々木眞太郎	天橋の夕	佐々木整
十三等	銀河	鈴木登	晩歸	大峰眞一郎
十四等	古井戸	島村安三郎	日本海	吉川晴帆
十五等	葉末のつゆ	中尾正幹	山みち	折笠貞義(以下略)

九月二十二日開會、三十九人 百五十九枚、選評の結果上記の如し。

露の一等は圖按として色彩の配置よかりし。二等は同じく色彩に於て優秀なりしも、取材の古きは惜むべし。八等は意匠佳なりしも筆致拙なく、十二等は何かの焼直しにやとの疑あり。夕陽一等は謹嚴の色、二等は忠實、三等は夕陽の感不充なりしも技倆他に秀いでたり。五等はセピア畫としてよく夕陽の感を現はしたり。七等は不真面目の跡見ゆ。十等は筆致幼稚なるも、熱心の作にして將來大に有望なり。今回は意匠も技術も共に佳作多く選者の大に喜びとするところ、希くは次回に於ても一層優秀の作品を提出せられんことを望む。